

僕は後悔していない

僕も小学校に入る前、三才から、家の近くのお寺の保育園に、あずけられたことがある。

あの頃、祖母の弟の泰一おじさんを、僕は、泰兄（たいにい）のおっちゃん、といつも呼び、親しみ、かわいがってくれた。

仕事に行くついでにと、毎朝、泰一おじさんは、僕を、自転車の後ろに乗せて、高瀬川沿いのお寺の保育園へ僕を送り届けた。その保育園で、僕は、よく、オルガンの伴奏で、歌を歌った。

あの頃、歌っていた、どこか、聞き覚えのある唱歌を、今、僕は耳にしながら、もうろうとしながら、寺の門をくぐり、奥へと、歩いている。

「彼女自身の口から聞こう。
駄目なら、さっさと帰ろう。」

お寺の本堂の門の前に来た。
広い、比較的大きなお寺だ。
歴史的に由緒あるお寺なんだろう。

門から住職の住んでいる家が見える。
本堂とつながっているようだ。
門がくぐれない。
こわごわのぞき込む。